

IBARA

A GUIDE TO IBARA CITY

60th ANNIVERSARY
井原市勢要覽





井原市

美しい自然 息づく文化
笑顔でつながるひと

元気発信都市いばら



01 井原市勢要覧



QRコードを携帯電話で「かざして」いただくと、本要覧に関する音声ガイドンスをお聞きいただけます。



YouTubeでご覧いただく場合はこちら



音声のみを聞かれる場合はこちら

目次 [Contents]

元気発信チャート2
まっコレ4
笑う力で健康に6
四季折々8
星が彩る夜空の神秘10
井原の恵みを食す12
世界に誇る「井原アニメ」14
生命力あふれる先人の軌跡18
古きを訪ねる20
文化の誇り22
【井原】60年の軌跡24
未来を創る28
市長あいさつ32
井原市をもっと豊かに35

井原 元気発信チャート

■市長あいさつ・航空写真 (P32~34)
市長あいさつと発展を続ける井原の中心市街地を航空写真で掲載しています。

本要覧は、井原市を「観光」、「健康」、「自然」、「特産」、「歴史・文化」、「創造」の6つのジャンルに分けて構成しています。こちらでは、要覧の概要が一目でわかるようにチャートとしてページごとに紹介しています。

■行政・議会 (P35)
行政・議会、まちへのアクセス、友好親善都市について掲載しています。

■表紙・組み写真



表紙には、特産の「井原デニム」をイメージで使用。また、本市出身、平柳田中(ひらくしてんちゅう)作の「鏡獅子」の顔に塗られたクマドリと市名の背景には、鏡獅子と将来都市像「美しい自然 息づく文化 笑顔でつながるひと 元気発信都市いばら」をイメージして構成した写真を掲載しています。



■井原ふるさと大使が選ぶまちコレ (P4, 5)
本市出身の二人のお笑い芸人さんが、まちのおススメスポット、特産品市場、宿泊施設を紹介しています。



■笑う力で健康に (P6, 7)
「笑い」は無理なく継続できる健康法と位置づけ実施している、「笑って健康元気アップ事業」について掲載しています。



■四季折々 (P8, 9)
豊かな自然に恵まれた本市を彩る、季節ごとの美しい景色などを掲載しています。



■星が彩る夜空の神秘 (P10, 11)
県下最大級、口径101cmの望遠鏡を有する美星天文台をはじめ、市が誇る星について掲載しています。



■井原の恵みを食す (P12, 13)
地域の恵みとつくり手のまごころから生み出される特産品。また、大手企業と結ぶ「まちづくり」協定について掲載しています。



■世界に誇る「井原デニム」 (P14, 15)
その品質の良さから、名だたる有名ブランドにもデニム生地を供給している「井原デニム」について掲載しています。



■平柳田中ものがたり (P16, 17)
本市を代表する偉人で、近代彫刻界の巨匠と称される平柳田中について掲載しています。



■生命力あふれる先人の軌跡 (P18, 19)
平安時代から現代にいたるまで、全国、世界で活躍した本市に縁のある偉人について掲載しています。



■古きを訪ねる (P20, 21)
まちに残る数々の歴史的遺産について掲載しています。



■文化の誇り (P22, 23)
本市が発祥の地である中国地方の子守唄や無形民俗文化財について掲載しています。



■未来を創る (P28~31)
現在の井原市が目指す、まちづくりの方向性や施策について掲載しています。



■60年の軌跡 (P24~27)
市制施行60周年を記念し、これまでのまちの歩みを写真と年表で掲載しています。



美星産直プラザ
朝市には、新鮮な野菜や乳製品など、目移りするほど豊富な品揃えが自慢。市内外から多くの人が訪れる人気のスポット。



葡萄浪漫館
新鮮ぶどうは、全国からの注文も殺到するほど。



井原駅
市の中心部に位置する井原駅。那須与一の弓矢をモチーフとしたユニークな形がまちのシンボル。



嫁いらず観音院
嫁の手を煩わさず健康に生涯を全うできるとされ、大祭では全国から多くの人が参拝するお寺。



田中美術館
井原市が誇る木彫界の巨匠・平櫛田中の作品を保存展示した美術館。



天神峡
山々が真っ赤に染まる紅葉が見物。夏の川遊びもおススメ。



星空公園
美星の名が示すとおり、美しい星空が満喫できる公園。



美星天文台
県下最大級の望遠鏡を有する天文台。

買う

見る

まちコレ



泊まる



経ヶ丸オートキャンプ場
見晴らし最高。敷地内には、3種類のサイトやクラブハウスを完備。



ディーシャープ ザ ストア D# THE STORE
井原駅構内にあるジーンズショップ。



星の郷ふれあいセンター
合宿にも使える高原の研修施設。



高原荘
時間が経つのを忘れてリフレッシュできる。茅葺き屋根が自慢の古民家宿泊施設。



星空ペンション コメット
手に届きそうな満天の星空が、目の前に広がる贅沢なロケーション。

特産品「買」って、
ゆっくり「泊」まれば、
君も井原通!

井原よいとこ♪
「見」て行って〜♪

ブロードキャスト!!
ほうのふみのり
房野 史典
井原市東原町出身。株式会社よしもとクリエイティブ・エージェンシーに所属し、東京を中心に漫才コンビとして精力的に活動中。

千鳥ノブ
井原市芳井町出身。株式会社よしもとクリエイティブ・エージェンシーに所属し、関西・関東を拠点に活動。漫才コンビとして多数のテレビ番組にも出演し、大活躍中。

まちコレとは
井原市に生まれ、井原市で育ち、井原市のことを心から愛する「井原ふるさと大使」の一人が選ぶ、まちのスポットを「見る」「買う」「泊まる」で紹介。地元人だからこその魅力がそこにはあります!

井原ふるさと大使が選ぶ



平成24年8月18日、井原市民会館大ホールで大勢の観客の見守る中、「井原ふるさと大使委嘱式」を行いました。大使に委嘱されたお二人には市長が委嘱状を贈り、そのほか特産の井原デーツでつくった名刺入れやジーンズ、ぶどう、ハム、明治ごんぼなどを贈呈しました。式の終わりに千鳥ノブさんが「千鳥として井原で定期的にライブをやって、まちおこしになれば」と語り、ブロードキャスト!! 房野さんは「井原の良さを笑いで伝えることで恩返しできれば」と力強いあいさつで式を締めくくりました。

井原ふるさと大使委嘱式

井原ふるさと大使とは
本市が有する豊かな自然・受け継がれる歴史・文化、よそにはない個性あふれる特産品などの魅力を日本全国に向けて広くPRすることで、本市のイメージアップと観光振興向上を目的に活動する大使のことです。平成24年8月、本市出身のお笑い芸人である千鳥ノブさんとブロードキャスト!! 房野さんのお二人を委嘱しました。市としても初めての試みであり、今後は芸能活動を通じ、お二人から「笑」を通して井原を発信していただくとともに、市の行事に積極的に参加していただくことも検討しています。お二人には、生まれ育った本市の魅力PRに「役買ってもらう」よう、市長も「テレビや舞台を通じて、明るく楽しく井原の魅力を全国に発信していただきたい」と熱い期待を寄せています。

笑う力で健康に

Improving human health with the power of laughter



元気を発信
健康寿命日本一を目指している井原市。キラキラ光る子どもたちの笑顔が、まちの元気を発信している。

笑って健康 元気アップ事業



「笑う門には福来たる」ということわざがあるように、昔から「笑い」は人々に幸福をもたらすものとして考えられていました。井原市では、誰もが無理なく続けられる一番の健康法として笑いを取り入れた「笑って健康元気アップ事業」を実施しています。具体的な取り組みとして、市が作成したオリジナル健康体操「元気アップ体操」の推進をはじめ、「ウォーキング事業」「笑いの講座」などがあります。これらの事業から、「笑い」による健康づくりを地域へ広めていきます。

グラウンド・ゴルフ場

平成24年9月、上出部町四季が丘にグラウンド・ゴルフ場がオープンしました。600人規模の大会を開催することができ、常設している4コースは井笠地域の中で最大となります。オープンから約3カ月で利用者数が1万人を超えており、健康づくりやコミュニケーションの場として人々に愛され、笑顔であふれています。



笑いの講座



笑いの講座は、「笑い」による健康づくりを実施し、市民の健康寿命の延伸を目指した事業です。落語家や道化師などを講師として、市内の各公民館や生涯学習センターなどで笑いの講座を開き、「笑い」が健康に効果があることを伝えていきます。実際に落語や漫談などを間近で観賞して笑うことで、「笑い」の大切さを学ぶことができるため、市民の評価が高く、参加者が笑顔になれる講演会を行っています。



ウォーキング事業



ウォーキングに関する事業では、講師を派遣して大会や教室を開く事業を推進しています。例えば美星地区では、「笑って健康ウォーキングinびせい」を開催し、コースの途中で地元特産品を試食できるなど、まちの良さを楽しみながらウォーキングに参加することが出来ます。さらに、ウォーキングをはじめるとあたって、より効果的な歩き方のポイントを講師から学ぶことが出来る「ウォーキング教室」も開催しています。このように、ウォーキングに笑いを取り入れた新しい方法で、健康づくりを図っています。

元気アップ体操



「元気アップ体操」は、「笑って健康元気アップ事業」の二環として、平成23年3月に井原市が作成したオリジナル健康体操です。井原市が推進している「笑い」は、誰もが無理なく継続できる健康づくり、生涯学習の「第一歩」の考え方をもち、「井原市民の歌」にあわせて、大人から子どもまであらゆる世代の人たちが楽しく運動できる内容となっています。

立って行う基本バージョンと座って行う椅子バージョンの2つの方法があるので、どなたでも安心して行うことが出来ます。

Ibara city is practicing the "Improvement of Human Health and Energy through Laughter Project", as laughter is the best health method that can be continued by all without excess. We are promoting health by advocating this city's original "Genki Up Exercise", walking projects and courses on laughter. Also, there is a ground golf course, the largest in the Ikasa area, in Ibara city and it has been a place for promoting health and interchange between people.

四季折々

Four Seasons: Our hearts stir at the brilliant colors of the four seasons.

まちを巡る四つの季節が魅せる、色鮮やかな表情に心が躍る。

3月 ● 全国健康マラソン井原大会
● 嫁いらす観音院春季大祭

4月 ● 井原市産業まつり
● 井原桜まつり
● 葡萄酒漫大神楽
● 市民芸能祭
● 井原市北条早雲まつり

5月 ● さつき展

6月 ● 美星新茶まつり
● 中世楽市・夢の市

7月 ● 芳井宵あかり

8月 ● 井原夏まつり
● 井原納涼花火大会
● 天の川まつり
● 与一まつり

9月 ● 中世夢が原大神楽
● 嫁いらす観音院秋季大祭

10月 ● 市民体育祭
● 井原鬼まつり
● 菊花展
● 美星ふるさとまつり

11月 ● 文化祭
● 芳井ふるさと祭り
● 三原渡り拍子
● 子守唄の里音楽祭

12月 ● こんぼう村フェスティバル
● 新体操フェスティバル
● 井原駅前ミナクルネ

1月 ● 井原線ワンコインデー
● 星の郷ふれあい健康マラソン

2月 ● 中世夢が原旧正月

澄み渡る星空にかがやく白雪が舞う冬。まちには幻想的な光景が広がり、やがて訪れる新たな命の誕生を待ちながら、静かに一年の終わりを迎えます。



1.井原駅前ミナクルネ
2.中世夢が原
3.こんぼう村フェスティバル



1.井原鬼まつり
2.田中苑の權の木
3.市民体育祭
4.天神峡
5.鬼ヶ嶽



自然がもたらす命の恵みに感謝し、赤が彩る豊饒の秋。雄大にそびえ立つ木々たちはきれいな紅葉をまとい、人々の幸を祈る伝統のまつりが先人と私たちの思いをつなぎます。



1.井原堤の桜並木
2.芳井の鯉のぼり

厳しい冬を乗り越え、新たな命が芽吹く春。可憐に咲き誇る花々は、毎年変わることなく多くの人々を魅了し、まちにあたたかな春の訪れを告げます。



太陽の日差しをいっぱい浴び、沸きあがる命に燃える夏。夜空に咲く満開の花火や熱気あふれるまつりはにぎわいと歓声にかわり、涼しい清流の水面はキラキラと光ります。



1.井原納涼花火大会
2.天神峡
3.天の川まつり
4.鳴滝峡
5.井原夏まつり





Mysteries of the Stars Coloring the Night Sky. The messages they carry

星が彩る

【美星天文台特集】はるか何光年先から届く星の光が伝えるメッセージとはー。

夜空の神秘

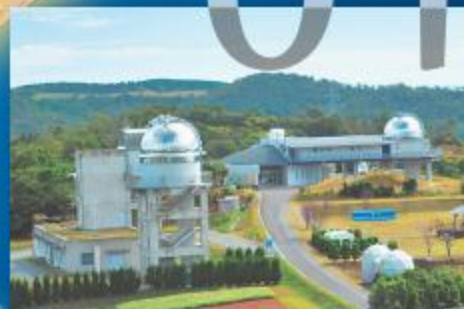


美星天文台長
綾仁 一哉さん
Kazuya Ayani
大阪府出身。東京大学大学院
卒業後、33歳で美星天文台へ。
平成12年より美星天文台長を務める。

最高の星の「見え味」

美星には星を見るための好条件が三拍子揃っています。二つ目は、瀬戸内海式気候により晴天率が高く星が見える日が多いこと。二つ目は、都市部から離れ、星空の美を守る条例によって夜がしっかり暗いこと。三つ目は、高い山がないため風の流れが良く、星がくっきり見えること。美星では最高の星の「見え味」を体感できますよ。

美星天文台を 探検しよう。



最高の星空を最高の条件で見ることができる美星天文台は、中国地方最大級・国内有数の公開天文台。さあ、星をもっと身近に感じる探検に出かけよう。



入口付近に展示されている「渾天儀」は、中国古来の天体位置測定器械。ここでは、明の時代から中国南京の紫金山天文台に現存するものの実物大レプリカが見られます。



美星天文台が誇る口径101cmの反射望遠鏡は、県下最大級の一級公開用望遠鏡。人間の瞳の2万倍もの集光力があり、肉眼では見ることのできない星雲・星団、はるか宇宙の彼方にある天体まで見ることができます。誰でも気軽にスターウォッチングを楽しむことができるのは、美星天文台ならではの魅力です。



そのほか、天体の生写真や星座グッズなどを販売しているミュージアムショップ、工作教室や講演会などが行われる研修室など、楽しく学べるスポットが盛りだくさん。

Ibaraki city, with the "Bisei Astronomical Observatory", owning the largest telescope on public display in Okayama, and Bisei Space guard Center", guarding the safety of space activities, is a city meeting all the requirements for viewing beautiful stars. Please experience the spectacular scenery of stars.

「日本三選星名所」に 輝いた美星の★コラム

① 光害防止条例

井原市美星町には、流れ星の伝説とその名にふさわしい美しい星空があります。人工光による光害が人々から星空の美と神秘に触れる機会を奪う影響を与えてきました。そこで、感動をもつてはるかなる星空に親しみ、宇宙探検の機会と交流の場を提供するため、「光害防止条例」を施行しています。

② 星盗り

物干し台から星を取ろうとする落語の演目からインスピレーションを受けて描かれ、全国広報コンクールスター部門で3席入選を果たした作品。作者の三宅はるみ氏は、美星町で生まれ育ったイラストレーター。



③ 星空公園

標高500メートルを超える山頂にあることから見晴らしの良い星空公園。ドームの中に口径60センチメートルの反射望遠鏡があり、季節の天体を見ることが出来ます。星に親しんでいたことを目的に、月に2度、観望会を開催しています。



井原は地球を守ってる？ 美星スペース ガードセンター

宇宙には使われなくなった人工衛星やロケットの「部」などのゴミが漂い、これらはスペースデブリと呼ばれています。当施設は、365日小惑星とスペースデブリを専門的に観測する世界初の施設として、平成12年に（財）宇宙フォーラムにより整備され、NPO法人日本スペースガード協会によって観測運用されています。宇宙活動の安全を守るうえで、欠かすことのできない存在という重大な任務を任された施設として夜空を観測し、移動天体の発見や追跡を行います。また、無料の展示館も併設していますので、ぜひ一度実物をご覧ください。



インタビュー 小惑星を 見つけた少年

平成21年11月(当時)小学5年生に参加した美星スペースガードセンターの観測イベントで、県外から参加していた方と小惑星を発見しました。発見から3年が経ち、僕らが見つけた小惑星が正式に登録されたことに驚きましたが、僕ら学生に命名提案権が与えられ、これが世界的に異例と聞いてもつと驚きました。幼いころから星は本当に身近な存在で、美星は星と人の距離が近いと感じています。まだ名前は決まっていますが「びせい」という言葉はぜひ入れたいです。

中学校3年生
金高 佑斗くん
Yuto Kanetaka





Having Ibaraki's Bounties: specialties, produced from rich nature

井原の恵みを食べす

豊かな自然の恵みから生み出される特産品。

地元の特産品を使用した絶品料理

一年中温和な気候に恵まれた本市には、ぶどうや明治ごんぼう、乳製品、肉加工品などの食資源があります。大地の恵みと地元農家が熱い思いをもつて大切に育ててきた特産品は、どれもが独自のおいしさを有し、全国に誇れる逸品です。市の特産を贅沢にあしらったオリジナル弁当をもとに、そのおいしさの秘密をご紹介します。



料理の制作協力
井原市栄養改善協議会
地域での食生活改善活動や健康づくりのための運動普及活動を行っている栄養改善協議会の皆さんにご協力いただきました。



大日本麦酒時代のサッポロビール
ビール需要が高まった大正・昭和時代、製造技術や原料の品種改良など、大日本麦酒株式会社が業界に果たした役割は多大。



明治ごんぼう

歯切れが良く、風味が良いのが特長の明治ごんぼう。そのおいしさを支えるもう一つの要素は、多量の粘土を含んだ重粘り土壌(赤土)。



ぶどう

「大粒」「良い香り」「高い糖度」という3拍子が揃った井原のぶどう。一口食べれば口の中いっぱいに芳しい香りが漂う絶品フルーツで、全国にも多くのファンがいるほど。



愛宕梨

日本一の大きさを誇る愛宕梨の香りと風味は別格。



愛宕柿

独特の歯ざわりを堪能できる愛宕柿は、しっとりとした瑞々しい果肉が自慢。



こんにゃく芋

芋の香りを残したこんにゃくを生み出すこんにゃく芋。



Ibaraki grows high-quality food resources, including grapes, Meiji burdock, Bisei dairy products, and processed goods of meat. Also, it has made joined city growth agreements with "Sapporo Breweries" and "Sapporo Beverage" as it is the birthplace of Umakoshi Kyohei, the king of eastern beer.

美星乳製品

美星ですくすく育った乳牛から採れる新鮮なミルクを使用し、素材の味を生かした風味豊かな乳製品。お取り寄せグルメとしても人気。



肉加工品

広々とした美星の高原の中で、のびのびと育った牛や豚。熟練の腕で肉の旨みを最大限に引き出した肉の加工品は美味。



東洋のビール王 馬越恭平翁

天保15(1844)年、後月郡木之子村(現在の井原市木之子町)生まれ。時は流れて明治32(1899)年、文明開化が進む一方、ビールを飲む習慣が定着していなかった日本で初のビアホールを開き、「躍」ビールを大衆文化に受け入れさせることに成功。そして明治39(1906)年、日本麦酒・札幌麦酒・大阪麦酒の3社合併で大日本麦酒株式会社が誕生し、社長就任。馬越時代の大日本麦酒は飛躍的に発展を遂げ、市場シェアは79%にも達し、「東洋のビール王」として称賛されました。また、地元に対しても多額の寄付を行い、井原の発展に貢献しました。



サッポロビールとまちづくり提携

井原市では、サッポロビール株式会社およびホッカサッポロフード&ビレッジ株式会社と「まちづくり」に関する協定を締結。市内におけるビール製品(缶瓶)の出荷数1本あたり1円、樽生製品の出荷数1リットルあたり1円のほか、市内に設置された協賛自動販売機で、ジュースを買ったとき、1本あたり3円が本市への「まちづくり協力金」となり、まちづくりの財源として活用されています。





The Story of Hirakushi Denchu: a master sculptor of modern times

平櫛田中

彫刻に人生をかけた近代彫刻界の巨匠。

ものがたり



幼児狗張子

尋牛

完成まで二十余年を費やした名彫刻「鏡獅子」

人間味あふれる彫刻作品を数多く生み出した平櫛田中。中でも「鏡獅子」は伝統と近代が融合した彫刻史に残る名作として知られています。この作品は、歌舞伎界で名舞台と評価の高かった六代目尾上菊五郎演じる「鏡獅子」をモデルとして、昭和11年に制作をはじめ、幾多の苦心と曲折を経て、昭和33年に完成しました。制作時、田中は歌舞伎座に25日間も通い詰め、その秀でた観察眼をもって生涯の大作に挑みました。また、木彫に彩色を施すという挑戦を行い、その圧倒的な芸術性が認められ評価につながったことも有名です。高さ2メートルもある「鏡獅子」は、現在国立劇場のロビーに展示され、今なお訪れる人々を魅了し続けています。

近代彫刻家 平櫛田中の生涯

明治5(1872)年、岡山県後月郡西江原村(現在の井原市西江原町)の田中家に生まれ、本名は田中倬太郎ですが、明治15(1882)年に平櫛家に養子入りして改名。明治26(1893)年、21歳で木彫の道を志し、大阪の人形師中谷省吉に弟子入りして以来、その類まれな写実性と精神性を兼ね備えた芸術性で彫刻界をリードし続けました。田中の創作意欲は衰えることがなく、100歳を超えてもなお作品をつくり続け、107歳でその生涯を終えるまで心不乱に現役を貫いた世界最高齢の

芸術家となりました。「早世した二人の子どもの分まで生きる」が口癖だった田中の最新近くの言葉は、「二人で行きます。供はいりません」であったといわれています。



田中碑文

田中が遺した名言

昭和33年に井原市名誉市民となり、昭和37年に文化勲章を受章した田中は、その高い人格から多くの名言を世に遺しています。特に多くの人々の座右の銘としても親しまれている名言は、「いまやらねばいつできる わしがやらねばたれができる」。この名言は、田中自身「私が何歳のときであれ、いつもおのれに持ってきた気持ちであり、いつわらざる心境である」と語っています。そのほかにも、「六十、七十はなたれこそう、おとこざかりは百から百から、わしもこれからこれから」なども遺し、いずれの言葉からも田中の

強い活動力や心がけを感じることが出来ます。



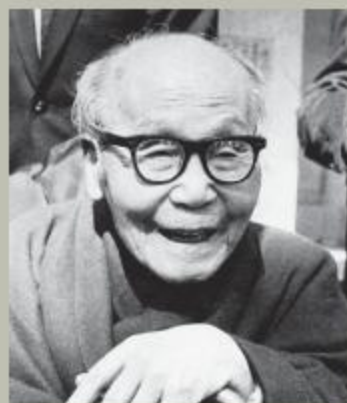
Ibaraki city is the birthplace of Hirakushi Denchu, known as a master of modern Japanese sculpting, and there is the "Denchu museum," housing Denchu's works. "Kagamijishi" known as his masterpiece, is currently on display in the lobby of the National Theatre. Denchu has also left various witticisms.

井原市立

田中美術館

IBARA MUNICIPAL DENCHU ART MUSEUM

近代彫刻界の巨匠・平櫛田中の作品を保存展示し、永くその偉業をたたえ、郷土文化の向上に役立てるため、昭和44年に「田中館」として開館。その後、昭和48年に「田中美術館」と改称し、昭和58年の市制30周年を記念して新館を開館しました。



3階には田中が作品を生み出した東京上野桜木町のアトリエを再現し、当時の面影を偲ばせ、美術館の前にある「田中苑」では、田中の作品とともに移りゆく四季を楽しむことができます。



1. 田中の作品のブロンズ像がある田中苑は、市民の憩いの場となっています。
2. 館内には、田中の作品や田中との関係が深い日本美術院の作家等の作品も展示しています。



World-class "Ibara Denim"

世界に誇る

井原デニム

井原デニムヒストリー

さかのぼること約340年前、井原市では綿花を利用した衣服を織っており、江戸時代には土産物として大変人気がありました。こうした織物技術とジーンズの素材になるデニム地の生産地であった本市では、全国に先駆けてジーンズの製造を開始。最盛期を迎えた昭和45年には、年間1500万本、国内生産量約70%を誇る日本を代表するジーンズ産地となり、その確かな力は今でもまちを支える産業の根幹を担っています。

デニム生地
デニム生地は藍に染めた縦糸と未染色の横糸を綾織りにした厚地綿布のこと。近年では紡績技術が向上し、さまざまなデニム生地が誕生しています。

Ibara city, flourishing as the home of fabrics and denim, produced 15million pairs of jeans per year in the 70s' and had a 70% market share in Japan. Also, it set up "Jeans Day," where city officials work in jeans, and operates the "Jeans Train," decorated with denim symbolizing the city's close ties with denim.

江戸時代 明治時代 大正時代 昭和時代 平成時代

江戸時代
江戸時代初期から、手つむぎ・手織りによる衣服の制作を開始し、慶安3(1650)年ごろからは綿花の栽培に加えて藍の栽培がはじまりました。

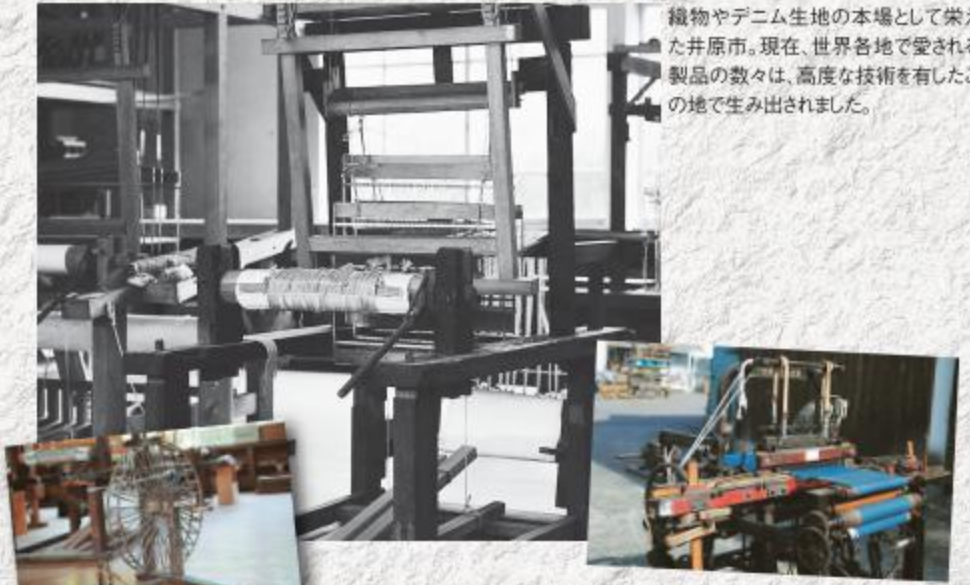
明治時代
嘉永7(1854)年の鎖国終了後、厚地綿織物の輸出を東南アジアやアメリカに向けて開始し、明治24(1891)年には、地方初の電動機械を導入した井原織物所創立。

大正時代
明治時代から生産がはじまった小倉服地は主に学生服として用いられ、第二次世界大戦まで「備中小倉」として世界各国へ送られました。

昭和時代
厚地織物の生産・縫製技術を生かし、昭和35年からジーンズ生産を開始。国産ジーンズ発祥の地と呼ばれるほど発展し、まちは藍色に染まりました。

平成時代
今日に受け継がれる丁寧かつ確かなものづくりの技術は、国内はもとより海外メーカーからも高い信頼を得ており、今後もその歩みはさらなる未来へと続いていきます。

織物やデニム生地の本場として栄えた井原市。現在、世界各地で愛される製品の数々は、高度な技術を有したこの地で生まれ出されました。



井原市には「ものづくり」に情熱をかける風土があります。それは長い時間を経た今でもなお色濃く残り、本市の素晴らしい財産として受け継がれています。

井原デニムの魅力
井原デニムは生地の頑丈さはもちろん、そのバリエーションの広さが最大の魅力で、私は世界だと思っています。デニム生地発祥の地という歴史を背景に、「デニム＝井原」というイメージを、地名も含めて全国、世界中に浸透させていきたいですね。



D# THE STORE 店長
小野 華子さん
Hanako Ono



井原被服協同組合が運営。井原駅構内にある店舗で、井原産デニムを使ったジーンズ製品などを販売しています。

デニムコラム 「ジーンズデー」
井原市では、市が誇る特産である「井原デニム」のPRを目的として、職員がジーンズ姿で仕事をを行う「ジーンズデー」を設定しています。クールビズ期間に実施しており、国産デニム生地発祥の地として、全国でもめずらしい取り組みとなっています。



ジーンズ列車

デニム生地特有の質感をリアルに表現した「ジーンズ列車」。井原鉄道のキャラクターである「いばらちゃん」と「あまちゃん」の活用促進に二役を買っています。





The Trace of Energetic Ancestors; inheriting historic cultures

先人生命の軌跡

悠久の時を経て、井原の地に受け継がれてきた歴史・文化の数々。まちが誇る偉人たちの軌跡を、今ひも解く。



北条 早雲 (1432年/1456年～1519年)

源平合戦の英雄

下野国(現栃木県)の那須一族から出た那須与一は、源氏に仕える武士として源平合戦で大活躍した人物です。弓の名手であった与一は、元暦2(1185)年四国屋島の戦いで、平家が船上に立てた扇の的を射落しました。その軍功を称えられ、荏原郷など5カ所の荘園の地頭職を賜りました。

那須与一

那須与一 (1168年～1190年)



- | | |
|---|---|
| 2 | 1 |
| 3 | |

1. 那須与一公墳
2. 小管城址(こすげじょうし)
3. 伝那須一族の墓

北条家の名将

備中国高越山城主伊勢盛定の子として生を受けた北条早雲(伊勢盛時)は、青年期までを荏原郷(現在の井原市東江原町・神代町)で過ごしました。応仁の乱後、駿河国に下り、今川家のもとで着々と勢力を広げ、晩年には伊豆、相模両国を治めるなど、最初の戦国大名といわれています。永正16(1519)年、伊豆の韮山城で没しました。



高越城址

Ibara city is home to heroes, who flourished in Japan and the world from the Heian period to the present. Especially notable are "Hojyo Soun," the first Japanese feudal lord, "Nasu no Yoichi," an expert of archer during the Genpei War, "Sesshu," a master painter of the Muromachi era, "Sakatani Rouro," a sinologist during the end of the Edo era, and "Uchiyama Kanzo," serving for Sino-Japanese ties.

室町時代の画聖

応永27(1420)年、備中国赤浜(現在の総社市赤浜)に生まれた雪舟は、室町時代を代表する水墨画家です。芳井町にある重玄寺には、雪舟作と伝えられる「千畝周竹画像」をはじめ、画幅がいくつか残っており、「東福寺誌」や「吉備物語」によると、雪舟が亡くなった場所として言い伝えられています。



雪舟 (1420年～1506年)

幕末の漢学者

文政5(1822)年、備中国川上郡九名村(現在の美星町明治)に生まれた阪谷朗廬は、幕末の漢学者です。大坂、江戸で漢学を学んだ後、芳井町築瀬に桜溪塾を開塾。嘉永6(1853)年、井原・橋内内に開校された郷校を興譲館と命名して初代館長を務め、数々の有能な人材輩出に尽力しました。



阪谷 朗廬 (1822年～1881年)

日中友好の尽力者

明治18(1885)年、内山完造は後月郡吉井村(現在の芳井町吉井)で内山家の長男として生を受けました。28歳の時に上海へ渡った完造は、上海内山書店を開き、中国の文化人と交流を深めました。戦後は、日中友好協会の初代理事長として、日本と中国の友好・国交回復に尽力しました。



内山 完造 (1885年～1959年)



重玄寺 嘉吉元(1441)年に建立された重玄寺は、昭和30年、鐘樓門と土蔵を残して全焼した。



興譲館高等学校校門 郷校の創建時に建てられた校門。正面には、朗廬と親交のあった渋沢栄一の扁額が掛かっている。



上海の内山書店 昭和4年、内山書店は上海の北四川路底に面した店に引っ越しをした。

古きを訪ねる

井原の地で生み出されてきた数々の歴史的遺産を巡り、まちが歩んできた過去へと思いを馳せる。



嫁いらす観音院大祭
年に2回、緑日にあたる春分と秋分の日で開催される大祭は、全国から訪れる大勢の参拝者でにぎわう。

嫁いらす観音院

天平9(737)年、行基菩薩によつて開基されたといわれる真言宗のお寺です。「年老いても嫁の手を煩わすことなく、健康で幸福な生涯を全うする」という霊験のもと、行基菩薩自らが彫つたといわれる十二面観音は、俗称「嫁いらす観音」と呼ばれ、地元で親しまれています。

星尾神社



その昔、3つの流れ星が落ちたとされる「星尾降神伝説」で有名な神社。落ちてきた流れ星を明神様として祀り、人々に熱く信仰されてきました。現在の社殿は、その昔社殿の正面に位置する笠岡で不漁が続いたことから、南向きから北向きに建て替えられたといわれています。

浪形岩

標高約260メートルに所在する貝殻石灰岩層で、長い年月を経て地下水で洗われた岩肌の跡が、浪のように見えることから浪形岩と呼ばれています。この石灰岩に含まれた化石から、約2000万年前は、この地が浅瀬であったことがわかります。幕末のころ千手院の住職が庭をつくる際、掘り起こしたことにより、すばらしい景観をつくり出しています。

五万原遺跡

弥生時代後期の竪穴式住居跡で、美星町に位置しています。昭和40年と42年に発掘調査を実施し、第3号住居跡を昭和43年に復元しました。住居跡からは、壺、高杯、鉢、石鏃など数々の遺物が出土しています。



竪穴式住居
当時の生活様式や周辺の歴史を知ることができ、昭和44年に美星町の史跡に指定されました。

高山寺

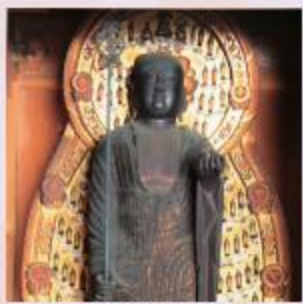
天平3(731)年、行基菩薩により開基されたといわれる古刹です。寺内には国指定文化財の不動明王坐像や地藏菩薩立像が安置され、境内には市の天然記念物である大樹「モッコク」がそびえ立っています。



木造金剛力士像
平安時代の金剛力士像は、全国でも6例しか残っていない。阿形像と吽形像の2つが安置されている。

金敷寺・金鳴寺

天平9(737)年、行基菩薩が開基したといわれる金鋪寺の僧坊が、現在の金敷寺・金鳴寺となりま



木造地藏菩薩立像
宝永4(1707)年に起こった地震や宝永山噴火などの被災者を供養する銘文が胎内に残る。



木造不動明王坐像
割はぎ造りの古法でつくられた坐像。嘉吉2(1442)年の銘文が残る。

善福寺

した。県内で最大を誇る平安仏「金剛力士像」が山門に安置されています。

應永3(1396)年、南北朝の争乱時に足利尊氏が立ち寄った場所に、足利義満が祈願所として寺を創建したと伝えられています。境内には、義満の宝篋印塔である鹿苑殿石塔婆が残っています。



釈迦堂
単層入母屋造りのお堂。寛文6(1666)年、柳本甚左衛門正勝が寄進した、市内に残る最古の建造物。

Numerous historic heritages remain, including "Yomeirazu Kannonin," with great numbers of worshipers from all parts of Japan and "Kozan temple," where some of the nation's designated cultural properties are enshrined. Also, the theme park "Chusei Yume ga Hara," recreating human life during the Middle Ages in Japan, is one of the very popular spots.

中世夢が原

「中世夢が原」は、発掘した資料や絵巻物をもとに時代考証し、中世の吉備高原一帯にあった村の生活情景を再現したテーマパークです。

一歩足を踏み入れれば、農家で、のわら草履づくりの様子や、生活必需品を売買する三斎市、山城の物見櫓などの風景が広がり、中世の暮らしを体感することができます。



中世のまちなみ



Pride in Culture: Inheriting traditional cultures from the past

文化の誇り

永き時を経て、この地で生み出されてきた伝統文化を、過去から現在、そして未来へと受け継ぐ。



中国地方の子守唄発祥の地

「ねんねこしゃつしやりませ」ではじまる中国地方の子守唄は、井原市高屋町が発祥の地です。この唄は、井原市出身の音楽家上野耐之が、自身の母が唄っていた子守唄を、恩師の山田耕筈に紹介したところ、耕筈が気に入り編曲を手掛けたものです。耕筈が編曲した子守唄は、後に国民に広く愛唱されるように



また、11月に、高屋中学校体育館で開催されている「子守唄の里音楽祭」では、地元の幼稚園児・小・中高生による合唱や吹奏楽の演奏などが披露されます。また、上野耐之のもとで学んだ歌手がゲストとして招かれています。

子守唄歌詞

ねんねこしゃつしやりませ
寝た子の可愛さ
起きて泣く子のねんころろ
つら憎さ
ねんころろん ねんころろん
ねんねん ころいちゃ
きょうは 二十五日さ
あすは この子の
ねんころろん 宮参り
ねんころろん ねんころろん
宮へ参ったときゃ
何というて 拝むさ
一生この子の ねんころろん
まめなよに
ねんころろん ねんころろん
橋の下には かもめが
日和(ひよ)るさ
かもめとりたや ねんころろん
わしゃこわい
ねんころろん ねんころろん

文化財センター「古代まほろば館」

人々が、まちの文化財に興味や関心を深めるために開設された施設で、遺跡から出土した考古資料の展示室や、文化財センター講座を開催する研修室などを備えています。



1. 古代まほろば館外観
2. 文化財センター講座風景



Ibara city, known as the home of lullabies of the Chugoku region, holds the "Home of Lullabies Music Festival" every year, where choruses and performances by local children are presented. Also, there are some intangible folk cultural assets including the "Bicchu Kagura," the "Holy Rituals of Itosakihachiman Shrine and Nakayamaten Shrine," and "Okura no Watari Byoshi".

井原市の無形民俗文化財

特集

国指定無形民俗文化財

「備中神楽」

荒神信仰に基づき備中地方一円で行われる神楽で、五穀豊穡、家内安全、無病息災、長久延命を祈念して奉納されます。歌舞伎能・狂言などの古典芸能から所作を取り入れた独特の舞は、江戸時代の文化・文政年間に成羽の国学者西林国橋が日本の神話から劇化し、岡山県を代表する伝統芸能として受け継がれています。美星町の中世夢が原にある「吉備高原神楽民俗伝承館」では、神楽の衣装などが見学できます。昭和54年、国指定の無形民俗文化財に指定されました。



県指定無形民俗文化財

「糸崎八幡神社・中山天神社の神事」

毎年11月第2土曜日とその翌日に、芳井町



西三原の糸崎八幡神社と東三原の中山天神社で行われる秋祭りです。室町時代から伝承されている神事です。祭典は、御湯立神事、渡り拍子、巫女舞、御神幸の儀からなっています。御神幸の先払いとして行われる神儀「渡り拍子」は、尾長鶏の羽でつくった赤熊を冠り、4人1組の打手がバチで太鼓を叩きながら飛びはねて踊ります。昭和56年、県指定の無形民俗文化財に指定されました。

市指定無形民俗文化財

「大倉の渡り拍子」

渡り拍子は、備中西部、備後に伝わる民俗芸能で、「大倉の渡り拍子」は、7年に二度、妙剣神社の御神幸の先払いとして行われています。太鼓の音に合わせて、百役、ヒョウタン、旗を先頭に、七福神、花笠などの華やかな行列が地区全体を踊りながら練り歩き、五穀豊穡を祝います。昭和49年、岡山県芸能祭に参加した後に結成された保存会が渡り拍子を伝承し、昭和50年、美星町の無形民俗文化財に指定されました。



Ibara city was born on April 1st, 1953, when spring flowers were in bloom, through the union of 10 villages and towns. The opening ceremony of city hall was held on that day, and the birth of the new city was greatly celebrated. Also, Hirakushi Denchu, one of great people of the city, was chosen as the first honorary citizen of Ibara city in 1958. During the period of rapid economic growth, Ibara city began its full-scale development of local areas and started work on new developments.

高度経済成長を背景に、地域開発の先進県といわれた岡山県の中に位置する本市は、備後工業整備特別地域に指定・編入し、新たな発展に向かつて歩みはじめました。

地域開発の胎動

したが、郷里に暮らす友人の熱心な勧めにより、昭和20年代後半から本市に足を運ぶ機会も増え、昭和33年には、井原市名誉市民第1号に選ばれました。このとき田中は86歳でした。

初代名誉市民に平柳田中氏

井原市に生まれた田中は、少年時代を現在の井原市西江原町で過ごしました。その後、13歳で故郷を出ま

昭和28年4月1日、花もほころぶ春の日に計10カ町村が対等合併し、人口39433人、戸数7778戸の井原市が誕生しました。開庁式は、井原高校の講堂で行い、盛大に新市の誕生を祝いました。

井原市誕生

懸命に駆け抜けた60年という歳月...あのころの記憶が、今甦る。

【井原】 60年の軌跡

Ibara's Footsteps over the Past 60 Years



- 昭和28年 4月 市制施行
初代市長に大山文雄氏
井原市章決まる
- 昭和29年 12月 井原市福祉協会結成
- 昭和30年 6月 井原市文化協会発足
- 昭和31年 9月 市庁舎完成(井原町夏目)
第1回文化祭開催
- 昭和32年 3月 井原郵便局完成(井原市中町)
図書館開館(井原町本町)
- 昭和33年 4月 国鉄井原線調査線へ編入(名称、井原線に決定)
- 昭和34年 3月 警察署庁舎完成(七日市町)
- 昭和35年 11月 国民健康保険全面実施
- 昭和36年 4月 初代名誉市民に平柳田中氏
井原・西江原中学校統合
- 昭和37年 10月 昭和橋完成
- 昭和38年 7月 集中豪雨により猪原橋、大正橋、薬師橋流出
- 昭和39年 10月 全国高校ホッケー選手権大会開催
井原市農業協同組合発足
- 昭和40年 10月 第17回国民体育大会ホッケー大会開催
- 昭和41年 1月 母子健康センターが業務開始
- 昭和42年 5月 市民病院開院
- 昭和43年 10月 第1回市民体育祭開催
市立高校開校
- 昭和44年 4月 「井原市史」発刊
- 昭和45年 4月 第2代市長に山岡昇氏就任
- 昭和46年 5月 学校給食センター開設
- 昭和47年 7月 名誉市民に元市長大山文雄氏
- 昭和48年 10月 国鉄井原線着工
- 昭和49年 10月 井原駅前土地区画整理事業計画決定
- 昭和50年 2月 福祉会館完成(井原町中町)
- 昭和51年 4月 井原市民憲章制定
- 昭和52年 12月 上水道給水開始
- 昭和53年 11月 田中館開館
- 昭和54年 3月 県道笠岡井原線完成
- 昭和55年 4月 市民会館落成
- 昭和56年 7月 井笠広域市町村圏に指定
- 昭和57年 9月 井原地区清掃工場完成
- 昭和58年 10月 井原警察署が移転(西江原町)
老人福祉センター完成
- 昭和59年 4月 第3代市長に小野強氏就任
田中苑完成
- 昭和60年 10月 井原駅前土地区画整理事業完成
コンピュータによる事務を開始
- 昭和61年 3月 高屋駅周辺土地区画整理事業計画決定
- 昭和62年 7月 第1回井原夏まつり開催
- 昭和63年 8月 移動図書館「さくら号」運行開始
- 昭和64年 3月 運動公園野球場完成
- 昭和65年 5月 労働福祉会館開館
- 昭和66年 9月 集中豪雨による被害多発(降水量481ミリメートル)
- 昭和67年 4月 井原大橋開通
- 昭和68年 12月 CATV井原放送開局
- 昭和69年 9月 市内小、中学校で米飯給食開始
- 昭和70年 4月 勤労者体育センター、働く婦人の家、保健センター開館
- 昭和71年 10月 市民体育館完成
- 昭和72年 7月 経ヶ丸グリーンパーク完成
- 昭和73年 3月 公共下水道事業認可、工事着手
- 昭和74年 4月 窓口オンラインによる証明事務開始
- 昭和75年 8月 第1回市民夏季大会開催
- 昭和76年 8月 富山県魚津市と友好親善都市縁組を締結
- 昭和77年 10月 食肉センター完成
- 昭和78年 3月 井笠地域産業振興センター完成
- 昭和79年 4月 田中美術館新館開館
- 昭和80年 10月 「井原市史の歌」発表
- 昭和81年 10月 総合福祉センター完成
- 昭和82年 10月 栃木県大田原市と友好親善都市縁組を締結
- 昭和83年 4月 第4代市長に西山公夫氏就任
- 昭和84年 4月 B&G財団井原海洋センタープール完成
- 昭和85年 10月 名誉市民に元衆議院議員藤井勝志氏
- 昭和86年 11月 第1回日本の子守唄フェスティバル開催
- 昭和87年 11月 第1回全国健康マラソン井原大会開催
- 昭和88年 4月 井原鉄道株式会社設立
- 昭和89年 12月 市立図書館開館(井原町本町)
- 昭和90年 12月 井原線工事再開



「井原」
60年の軌跡

井原線開業

平成11年1月11日午前11時11分
11秒、多くの関係者に見守られる
中、井原線開業のテープカットが行
われました。銀色にきらめく二両
編成の二番列車は、地域活性化への
期待を寄せ、総社駅・神辺駅に向け
て発車しました。

新・井原市誕生

平成の大合併により、井原市芳井
町・美星町の3市町を含んだ「新・
井原市」が平成17年3月1日に誕
生し、分権社会における行政施策の
充実と真の住民福祉の向上に取り
組みました。

市制施行60周年

今日の井原市を築いてきた先人た
ちが遺した輝かしい功績への深い感
謝に包まれ、井原市は60歳を迎えま
した。まちが誇る自然、歴史・文化、
人などの魅力を改めて見つめ直すと
ともに、これを契機にさらなる飛躍
をここに誓い、井原市は明るい未来へ
向かって歩み続けます。

The Ibara Line started its
service at 11:11 11'am on
January 11th, 1999, and the
New Ibara city was born on
March 1st, 2005, through the
union of Ibara city, Yoshii
town, and Bisei town. Ibara
city is approaching its 60th
anniversary from starting to
organize as a municipality,
and it will continue to take
steps toward a brighter
future.

いいぞ!いばら
行政番組

井原市では、「いいぞ!いばら」を
合言葉に、市民の皆さんに役立
つさまざまな情報を提供する行政
番組「市政だより」をCATV井原
放送により放送しています。約30
分間の番組では、市内で活躍
する方々をクローズアップした



企画を盛り込むとともに、市の
職員がナビゲーターを行うなど、
井原市をより身近に感じていた
だけのような工夫をしています。
今後も市民の皆さんに愛される
番組であり続けるため、まちの
魅力を発信していきます。



1. 平成25年に放送した新春
座談会の冒頭で、瀬本市長が
あいさつをしている様子。
2. 行政番組に出演し、合言葉
の「いいぞ!いばら」を元気に発
している市民の皆さん。



- | | |
|-----------|--|
| 昭和63年 1月 | 井原市文化スポーツ振興財団設立 |
| 平成元年 3月 | 井原市国際交流財団設立 |
| 平成2年 7月 | ② 公共下水道一部使用開始 |
| 平成2年 9月 | ③ 第5代市長に谷本巖氏就任 |
| 平成2年 11月 | ④ 子守唄の里「わくわくトラコハウス」オープン |
| 平成3年 4月 | ⑤ シルバー人材センター開設 |
| 平成4年 4月 | ⑥ 農協合併(井原市農協・西原町農協・福倉農協) |
| 平成5年 7月 | ⑦ ふれあいセンター完成 |
| 平成5年 4月 | ⑧ 市役所完全週休2日制実施 |
| 平成6年 6月 | ⑨ アクアライフ井原完成 |
| 平成7年 4月 | ⑩ 井原クリーンセンター完成 |
| 平成7年 8月 | ⑪ 経ヶ丸オートキャンプ場完成 |
| 平成7年 9月 | ⑫ 地域福祉センター完成 |
| 平成8年 5月 | ⑬ R&G海洋センター温水化 |
| 平成8年 10月 | ⑭ インターネットへ井原市ホームページ開設 |
| 平成9年 8月 | ⑮ 運動公園陸上競技場全面改修 |
| 平成10年 3月 | ⑯ 学校給食センター新築 |
| 平成10年 6月 | ⑰ 井原駅ビル完成 |
| 平成11年 10月 | ⑱ 高屋駅周辺土地区画整理事業完成 |
| 平成11年 1月 | ⑲ 鉄道井原線開業 |
| 平成12年 4月 | ⑳ 市内循環バス運行開始 |
| 平成12年 11月 | ㉑ 天皇后両陛下が地方事情視察のため井原市へ |
| 平成13年 7月 | ㉒ 葡萄酒醸造完成 |
| 平成14年 4月 | ㉓ 学校完全週休5日制開始 |
| 平成15年 7月 | ㉔ 新庁舎完成 |
| 平成16年 9月 | ㉕ 井原地域合併協議会発足 |
| 平成17年 3月 | ㉖ 市民病院新築工事完了 |
| 平成17年 3月 | ㉗ 井原市・後月郡芳井町・小田郡美星町が合併して新井原市誕生 |
| 平成18年 6月 | ㉘ 山王台地開発事業(四季が丘団地)敷地造成工事(第一期分譲区域)完了 |
| 平成18年 10月 | ㉙ 晴れの国岡山国体新体操競技開催 |
| 平成18年 11月 | ㉚ 井原高校女子ソフトボール優勝 |
| 平成18年 12月 | ㉛ 女子第17回全国高等学校駅伝競走大会において、興譲館高等学校優勝 |
| 平成18年 8月 | ㉜ 全国高校総体(インターハイ)男子新体操 井原・興譲館高校、団体優勝 |
| 平成18年 9月 | ㉝ 第6代市長に瀬本豊文氏就任 |
| 平成19年 3月 | ㉞ 西原幼稚園・申南保育園・西原公民館複合施設完成 |
| 平成19年 6月 | ㉟ 防災・防犯情報メール配信サービス開始 |
| 平成20年 7月 | ㊱ 特別養護老人ホーム「星の郷」開所 |
| 平成20年 1月 | ㊲ 協働のまちづくり市民推進室始まる |
| 平成20年 3月 | ㊳ 第80回記念選抜高校野球大会 興譲館高校野球部出場、応援団優秀賞受賞 |
| 平成21年 5月 | ㊴ 新型インフルエンザ流行 対策本部設置 |
| 平成22年 2月 | ㊵ 家庭ごみ有料化完全実施 |
| 平成22年 10月 | ㊶ 井原シニア新体操クラブ 全日本シニア新体操選手権優勝 |
| 平成22年 4月 | ㊷ いばらサンサン交流館完成 |
| 平成22年 10月 | ㊸ 国民文化祭美術展 子守唄フェスティバル&子守唄サミット開催 |
| 平成22年 12月 | ㊹ 女子第22回全国高等学校駅伝競走大会において、興譲館高等学校が5年ぶり2回目の優勝 |
| 平成23年 3月 | ㊺ 元気アップ体操完成 |
| 平成24年 4月 | ㊻ 緊急告知端末器「お知らせくん」本格運用開始 |
| 平成24年 8月 | ㊼ 地元出身芸人のノブさん(千鳥)と房野史典さん(フロードキャスト)を「井原ふるさと大使」に委嘱 |
| 平成24年 9月 | ㊽ グラウンドゴルフ場オープン |

未来を創る



【井原市第6次総合計画】

まちづくりのポリシー

総合計画とは、将来私たちの井原市をどんなまちにするのか、そのために何をやるのかをまとめたまちの最上位計画です。本市は、旧市町で取り組んできたこれまでのまちづくりの成果、「新市将来構想建設計画」、基本課題などを踏まえながら、個性をより一層磨き、魅力を高めるとともに、大きく変化する時代の潮流に対応する



夢・挑戦

まちの将来に夢や希望を持ち、現状維持に甘んじることなく、創意工夫をもってまちづくりに取り組みます。

参画・協働

市民自らが地域の課題解決に参画するしくみを確立し、市民と行政がそれぞれの役割を担う協働のまちづくりを進めます。

選択・集中

「選択」と「集中」の観点から優先的・重点的に取り組む施策を設定し、事業効果を高めます。

ため、まちづくりのすべての分野におけるポリシーを設定しています。

【将来都市像】

美しい自然 息づく文化
笑顔でつながるひと
元気発信都市いばら

自然からの恩恵、大切に守り伝えられてきた愛着のある文化、そしてこの地に暮らす人々や訪れる人々の笑顔。これらの財産を守り育て、最大限に活用しながら、市民一人一人が輝き、市民一人一人が尊重される市民主体のまちづくりを進めます。そのようなまちづくりを通じて、全国に井原の「元気」を発信し、子どもたちが誇りを持って引き継ぐことのできる新しい井原を創造していきます。

In the sixth Ibara City General Plan "dream/challenge," "choice/concentration," and "participation/co-operation" are the policies for developing the city, and "a culture of beautiful nature, people connecting through smiles, the city transmitting Genki; Ibara" is its vision for the future. Also, it has devised basic goals in six areas; "education/culture," "health/medicine/welfare," "conservation of environment," "industry," "foundation of human life," and "citizen participation/government finance."

興譲館高校 陸上競技部女子

創立以来160年の伝統と歴史を誇る興譲館高等学校。特に陸上競技部女子の活動が盛んで、全国高等学校駅伝競走大会で優勝。また、オリンピック選手も輩出するなど、全国の強豪校として広くその名を知られています。



井原高校 新体操部男子

明治35(1902)年にその輝かしい歴史の第二歩を踏み出した井原高等学校。近年、新体操部の活躍が目覚ましく、独創的かつ躍動感あふれる演技が評価され、全国選抜大会やインターハイで優勝するなどの実績を残しています。



【教育・文化】
心豊かでたくましいひとを育てるまち
基本目標:1

本市の次代を担う「ひと」を育成するために、学校・家庭・地域・行政など社会全体が一丸となって、人間性や社会性の豊かな、たくましい子どもたちを育てます。また、市民が、地域に根づいた文化・芸術やスポーツ等を

生涯にわたって学び、楽しむことにより、豊かな感性を育むまちづくりを進めます。

郷土愛の醸成

学校、家庭、地域との連携により、教育力の向上はもとより、本市の歴史・文化産業などを継承し、「ふるさと井原」を愛する心、誇りに思う気持ちを育む教育を充実します。



西江原幼稚園
子育て家庭の多様なニーズに対応できる幼保一体型施設。園の2階は公民館になっています。



ALT授業
小・中学校の英語科では、より実践的コミュニケーション能力を育成するための授業を展開しています。

【保健・医療・福祉】
いつまでも健康ではつらつと生きるまち
基本目標:2

市民が主体的に健康づくりを楽しむ環境を整備するとともに、障害のあるなしにかかわらず、誰もが住み慣れた地域で生きがいを持って生活し、安心して子どもを産み育て、老後を過ごせるよう、保健・医療福祉

サービスの充実を図ります。
【重点分野】
子どもの笑顔の創出
まちぐるみで子育てに関わり、まちに子どもの笑顔があふれるよう、安心して子どもを産み育てられる生活環境を形成します。

【重点分野】
健康寿命の延伸
高齢化が進展する中、いつまでも



いばらサンサン交流館
世代や地域を超えた交流促進の拠点施設として、健康づくりや生涯学習活動などが実施されています。



高齢者スポーツ大会
高齢者と子どもたちが交流するスポーツ大会です。

元気に暮らすことのできるまちを実現するため、「健康寿命日本二」を目指した取り組みを推進します。

「ファンタジー」 読書は 生きる力を育む

市内の子どもたちが読書に親しむための環境づくりを目的に、読み聞かせなどの活動をしています。

子どもたちは本当に真剣な眼差しで聞いてくれるので、いつも言葉では言い表せない、あたたかいものを感じています。また、中学校・高校での読書支援も今後は取り組んでいきたいですね。子どもたちには、読書を通して「社会に出てからの生きる力」を身につけてたくましく生きてほしい、そして私自身もその手助けを子どもたちの近くで続けていきたいです。



井原子ども読書推進実行委員会 会長
落合 由紀子さん

Yukiko Ochiai

【環境保全】
美しい自然を未来に
つなぐまち
基本目標:3

里山や田園、きれいな空といった、澄んだ緑あふれる美しい自然を次代に継承していくために、良好な自然環境の保全を図るとともに、市民一人一人が環境や資源を大切にすることを育み、持続可能な循環型社会

の構築を目指します。

【重点分野】
地球にやさしい
環境の創出

まちぐるみで環境保全活動に取り組むとともに、限りある資源を有効に活用するため、持続可能な生活環境を創出します。



クリーンキャンペーン
市内各地の自治会では定期的に草刈りや清掃を行い、環境保全に努めています。



小田川
一級河川に選ばれる小田川。そのやさしいせせらぎと春の桜が市民の心を癒します。

【産業】
活力と
交流を生み出すまち
基本目標:4

豊かな地域資源やさまざまな技術、情報ネットワーク等を活用しながら、工業をはじめ農林業や商業、観光等多様な産業の振興を図り、地域に根づいた産業の地力を伸ばします。また、自然や観光拠点などの

有力な資源を活用した交流拠点の整備を図るなど、まちににぎわいをもたらすとともに、井原らしい新産業を創出し、雇用の場の拡充を図ります。

【重点分野】
井原ブランドの
構築と発信

市内産業の振興・活性化を図るため、本市の優れた地域資源を生かした



縫製工場
織物・デニム生地の本場として、ジーンズ生産日本一を誇る岡山県を支えています。

たブランド化の促進や6次産業化への支援など、新たな産業の創出を目指すとともに、市民との協働により「井原らしさ」を発信します。



冬ぶどうのPR
立冬以降に出荷されるぶどうを、「冬ぶどう」として宣伝隊が売り込んでいます。

【生活基盤】
安全で
快適に暮らせるまち
基本目標:5

快適な生活環境を支える交通網、住宅宅地、上下水道等の整備をはじめ、クリーンエネルギーの活用促進など、利便性の高い住環境や景観に配慮した生活基盤を整備します。また、あらゆる災害、事故、犯罪等から市民の生命

や財産を守るために、市民や関係機関等と連携し、災害に強く、安全に安心して暮らせるまちづくりを進めます。

【重点分野】
安全・安心の確立

安心して地域で暮らし続けるために、生活基盤や都市基盤の整備、利便性の高いサービスの提供に努めるとともに、市民の助け合いを育む取り組みを支援します。



緊急告知端末器
「お知らせくん」
災害などの緊急時に必要な情報を伝える機器を全戸配布しています。



防災訓練
地域住民の防災力向上を目的として、バケツリレーやAED講習などを行っています。

【市民参画・行財政】
”My意識で”
みんながつくるまち
基本目標:6

すべての市民が、自分たちのまちや地域に興味を持ち、「まちづくりや地域の課題を解決するためにどうすればよいか」を考え、市民と行政が協働して実践することで、地域コミュニティの活性化につながるよう、協働自治を

推進します。また、行財政改革の推進により、効率的で実効性の高い行政サービスを提供します。

【重点分野】
協働のまちづくりの推進

市民や地域、団体等がまちづくりに積極的に参画する機会を拡充し、それぞれの立場で地域づくりの担い手として活動できるよう、多様な協働のしくみづくりを進めます。



市民活動センター
「つどえ〜る」
市民と行政による「協働のまちづくり」を柱とし、公益的活動を推進する施設です。



国際交流フェスティバル
インドネシア・カナダ・アメリカなど、各国の料理を楽しむことができるお祭りです。

「インタビュー」
ひと味ちがう
美星町の特産品

中山間地という環境により、古くから農業生産が盛んだった美星町。ここで生産者と消費者のかけ橋を担う星の郷青空市は、中四国地方における有人常設市場の先駆けとして、昭和62年に誕生しました。とにかく美星町産にこだわり、特に新鮮野菜は、この土地特有の赤土の土壌や昼夜の温度差が、ひと味ちがったおいしさを生み出しています。これからも生産者と消費者の間にある「顔の見え」る「関係を大切にして、美星の農業を維持・発展させたい」です。



Kazuhiro Haritani



Akito Shimizu



市長あいさつ



井原市長
瀧本 豊文
Toyofumi Takimoto

井原市は、昭和28年4月に井原町ほか町村の合併により誕生し、平成17年3月、芳井町、美星町との合併を経て、本年、市制施行60周年を迎えました。この記念すべき節目の年を迎え、今日に至るまで本市発展の礎を築かれた先人たちの努力と英知に感謝するものであります。

多くを要致でご紹介したように、本市は、温和な気候に恵まれ、里山や田園など、美しい自然に囲まれた暮らしが豊かです。この温和な気候により、さくらや「明電」元ばし「美星」の乳製品、肉加工品などの特産品があるほか、古くから繊維産業が盛んで

あり、井原デニムは有名ブランドの生地として使用されるなど、世界各地で高い評価を得ています。

現在、本市においては、こうした地域の個性・魅力を活かす大限に用いることから、全国「井原の元気を発信する」としても、「健康な日本」を目指して、市民の皆様がいつでも健康で、はつと生き生きとまわりの取り組んでいることを目指しています。

今後も、まちづくりの指針である「井原市第6次総合計画」に基づき、本市の発展と市民福祉の向上のため、誰もが誇り、想える井原の構築に全力で取り組んでまいります。

Ibara City is celebrating its 60th anniversary this year. On this memorable year, we appreciate the efforts and wisdom of those who came before us, who made the basis for the development of our city. We will continue working for the construction of a Ibara that everyone will be proud of, further development of our city and its citizen's welfare.

井原市を もつと豊かに

近年、市民の行政に対するニーズは多様化しています。本市では、より実効性の高い行政運営を推進するため、市民の生きた声を迅速にくみ取り、自主性を尊重しながら市民と一体となったまちづくりを目指すとともに、健全で効率的な財政運営を推進します。

また、市議会は、市政運営の方針を検討し、条例の制定や予算などを議決する重要な機関です。市民の意向を的確に把握し、市民福祉の向上に努めることはもとより、市民に分かりやすい「真に開かれた議会」を深く追求することでの「議会の改革を推進し、市民とともに考える議会の実現を目指します」。



市へのアクセス



- 岡山空港から車で
 - ・山陽自動車道岡山IC→笠岡IC下車
 - 県道34号線:所要時間:約1時間20分
- 電車
 - 【新幹線】JR岡山駅または福山駅で下車
 - 【岡山】JR伯備線(清音乗り換え)
 - 井原線で井原駅下車:所要時間:約60分
 - 【福山】JR福塩線(神辺乗り換え)
 - 井原線で井原駅下車:所要時間:約35分
- 車
 - ・山陽自動車道笠岡IC下車
 - 県道34号線:所要時間:約20分

友好親善都市

富山県魚津市

魚津市は、その名のごとく県下屈指の漁場として栄え、「層気楼・埋没林:はたるいか」がまちの三大奇観としてよく知られています。(本市とは昭和57年に友好親善都市縁組を締結)



栃木県大田原市

大田原市は、本市に縁のある那須与一公生誕の地であるほか、日本三古碑の一つである国宝「那須国造碑」が祀られるまちです。(本市とは昭和59年に友好親善都市縁組を締結)





市木 くろまつ



市花 さくら



市の草花 バンジー



市の草花 ペチュニア



IBARA

A GUIDE TO IBARA CITY 616TH ANNIVERSARY

井原市勢要覧

IBARA

発行年月 / 平成 25 年 3 月

発行 / 井原市

〒715-8601 岡山県井原市井原町 311 番地 1

TEL : 0866-62-9501 FAX : 0866-62-1744